

～海外情報～

2011年8月12日 全4頁

中国：物価動向を左右する豚肉価格の行方

経済調査部

齋藤尚登、新田堯之

豚肉価格は既にピークを付けた可能性も

[要約]

- 7月の消費者物価上昇率 6.5%に対する寄与度は、食品 4.4%、非食品 2.1%であり、項目別には豚肉が 1.5%と最大の寄与度となっている。豚肉価格の行方が今後の物価動向を大きく左右する要因のひとつであるが、大和総研では、既にピークを付けた可能性もあると考えている。その背景は、①7月の豚肉価格安定化策発表による上昇期待の減退、②2011年2月以降、豚飼育頭数は前年比で増加に転じ、肥育期間6ヵ月をプラスした8月以降の供給増加期待、などである。7月の諸政策の効果が本格的に出現するであろう2012年夏場以降は、供給増加による価格下落をも想定する必要があるのかもしれない。いずれにせよ、今回の消費者物価上昇の要因のひとつである豚肉価格は落ち着きを取り戻していこう。

7月のCPI上昇率 6.5%に対する豚肉の寄与度は 1.5%

7月のCPIは2008年7月
以来の高水準

中国の2011年7月の消費者物価上昇率は前年同月比 6.5%（前月比 0.5%）と、6月の 6.4%から上昇ピッチをさらに速めた。上昇率としては2008年7月以来の高水準である。食品は前年同月比 14.8%上昇（6月は同 14.4%上昇）、非食品は同 2.9%上昇（同 3.0%上昇）だった。1～7月の消費者物価上昇率は前年同期比 5.5%と年間抑制目標である 4.0%前後を大きく上回っている。

豚肉価格の行方が今
後の物価動向を大き
く左右

7月の上昇率 6.5%に対する寄与度は、食品 4.4%、非食品 2.1%であり、項目別には豚肉が 1.5%と最大の寄与度となっている。豚肉価格の高騰（前年同月比 56.7%上昇）がなければ、消費者物価は 5.0%の上昇だったことになり、印象は変わってくる。豚肉価格の行方が今後の物価動向を大きく左右する要因のひとつと言えよう。

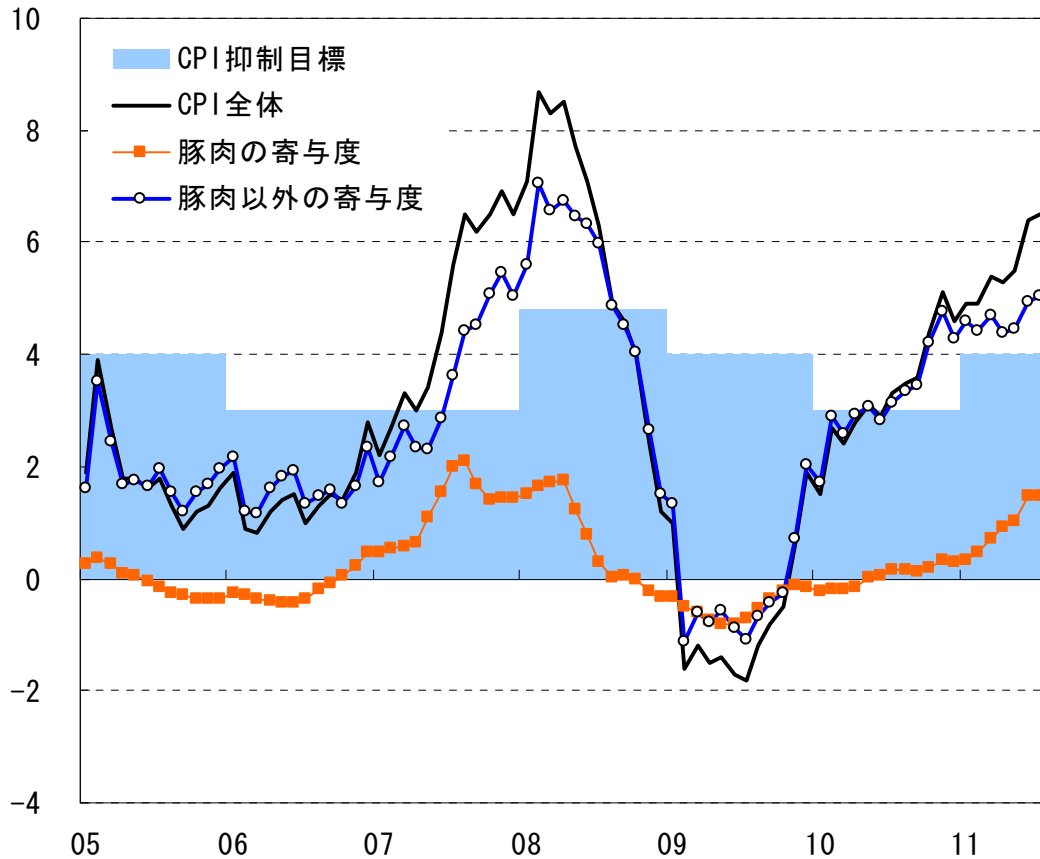
豚肉価格は既にピー
クを付けた可能性

結論を先に言えば、豚肉価格は既にピークを付けた可能性もあると考えている。まず、政府による豚肉価格安定化策の発表によって上昇期待が減退する公算がある。7月12日の国务院常务会议での方針決定を受け、7月27日付けで国务院弁公庁が豚肉価格安定化を目的とした通知を発表したが、その骨子は、①供給増加のため、中央政府が大型養豚事業に対して 25 億元の投資を行う、②養豚奨励重点エリアを 421 から 500 に拡大する、③繁殖用母豚一頭につき 100 元の補助金を支給する、④無料ワクチン接種制度を整備し、公共防疫システムを完備した養豚場に補助金を支給する、というものであった。これらは、4年前の 2007年7月30日に発表された「豚の飼育の発展促進と市場供給の安定に関する意見」（国务院）と同様の内容であり、当時は翌月の 2007年8月に豚肉価格がピークを付け、上昇ピッチがいったん減速した経緯がある。もちろん、これらの政策は即効性のあるものではなく、供給増加による価格抑制効果が本格的に現れるには、9ヵ月～12ヵ

価格安定化策発表に
よる上昇期待の減退

月の時間が必要である。

(図1) CPI 上昇率と豚肉・豚肉以外の上昇率寄与度、CPI 年間抑制目標の推移 (単位: %)



(注) 豚肉のウエイトは2.6%と固定して試算

(出所) 国家統計局より大和総研作成

豚肉価格は上昇鈍化へ

今回の豚肉価格高騰の要因

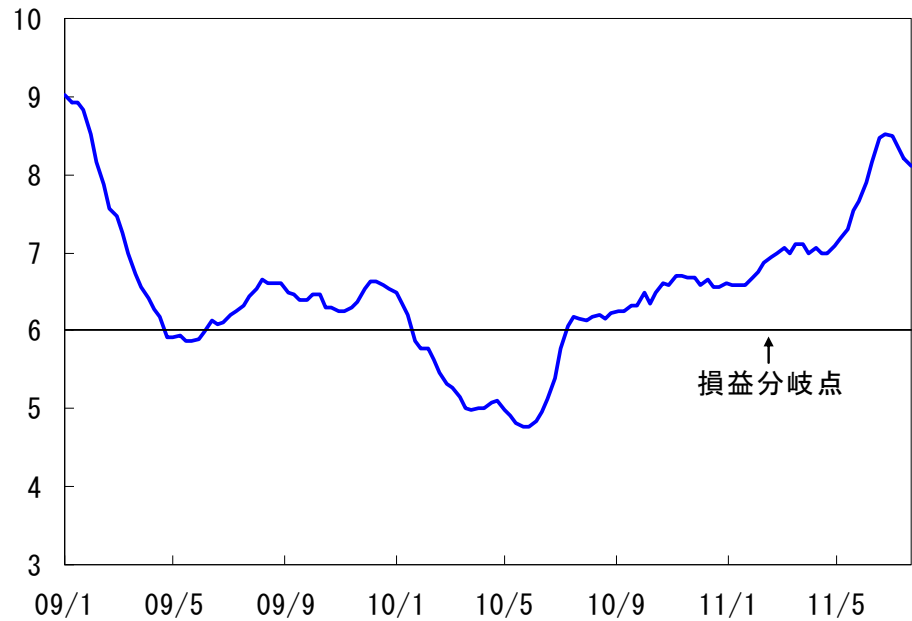
しかし、豚肉価格のピークアウトを想定する要因は上記のような政策発表によるセンチメントの変化だけではない。

そもそも今回の豚肉価格上昇は、①養豚業者の生産意欲低下や疫病による供給不足（懸念）、②飼料や人件費などのコスト上昇、とされるが、供給問題については、近々払拭される可能性がある。

図2は、国家発展改革委員会が豚肉の安定供給・価格安定のために重要視している豚肉と飼料の価格比、図3は繁殖用母豚の飼育頭数の推移をみたものである。価格比は6（豚肉）：1（飼料）が、養豚業者の損益分岐点とされ、それを上回るほど利益が増加し、下回るほど赤字が増加するとみなされる。6未満～5.5：1の局面では冷凍豚肉の国家備蓄を増やすことで市場供給量を減らし豚肉価格の引き上げを図り、5.5未満では政策を強化することになっている。この価格比は2010年2月初めに6を割り込み、5月末には4.76：1にまで低下。養豚業者は赤字拡大を余儀なくされ、将来を悲観して養豚を放棄する業者が増加したと推察される。その

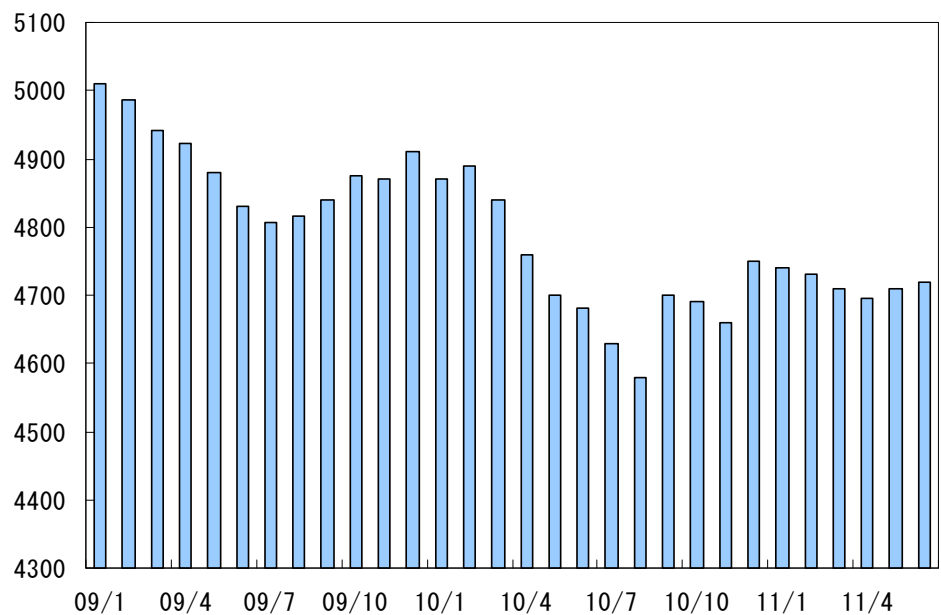
結果、繁殖用母豚の飼育頭数は2010年8月には直近ボトムの4580万頭にまで減少した。母豚の補充から交配・出産・肥育には12ヵ月が必要とされることから今年夏場に向けて供給不足が強く懸念されるようになり、価格高騰を招いたと考えられる。

(図2) 豚肉と飼料の価格比 (単位: 倍)



(出所) 国家発展改革委員会データより大和総研作成

(図3) 繁殖用母豚の飼育頭数 (単位: 万頭)



(出所) 農業部データより大和総研作成

供給懸念は払拭へ

しかし、2010年7月中旬に価格比は6:1を上回り始め、繁殖用母豚の飼育頭数も9月以降は増加傾向にある（2011年5月には前年同月比でも増加に転じる）。豚全体の飼育頭数は2011年2月に前年同月比で増加に転じており、出荷までの肥育期間である6ヵ月をプラスしても2011年8月以降、供給増加期待が高まっていこう。

結局のところ、政策発表によるセンチメントの変化と8月以降の供給増加期待の高まりにより、豚肉価格の上昇ピッチは減速していく公算が大きいとみている。さらに2011年7月の諸政策の効果が本格的に出現するであろう2012年夏場以降は、供給増加による価格下落をも想定する必要があるのかもしれない。豚肉価格には3~4年の周期性があるのだが、それには、上記のような価格調整が働いているのである。今回の消費者物価上昇の要因のひとつである豚肉価格は落ち着きを取り戻していこう。

以上